

envu™

殺菌剤 芝用

 **ミラージュ®**  
フロアブル

ガードを固める、夏を乗り切る

登録商標 第4640267号



# 夏の病害ストレスに ストレスガード製剤技術を採用

## 特長

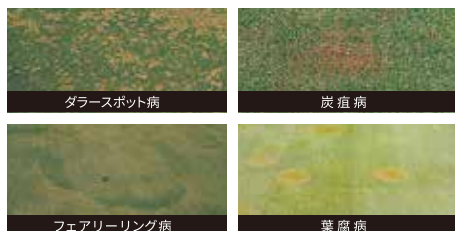
- ストレスガード製剤技術を採用した殺菌剤
- 幅広い病害に安定した効果
- 夏期の継続的な予防散布で芝の健康とターフクオリティーを維持
- ベントグラスに対する影響が少ない有効成分
- 散布後の芝の美しい仕上がり

### ストレスガード製剤技術とは?

ストレスガード製剤技術は、UVB を効果的に遮断しつつ光阻害を緩和する、Envu の独自技術です。この製剤技術を用いた殺菌剤を使用することにより、病害の防除はもちろん、芝のストレス軽減や色合いの向上など、ターフクオリティーを向上させることが可能となります。

## グリーンの健康を維持するためには予防散布が重要

ミラージュフロアブルで春～秋に  
発症しやすい病害を幅広く抑制



病気の発症率を抑えて  
夏を乗り切る体力を維持

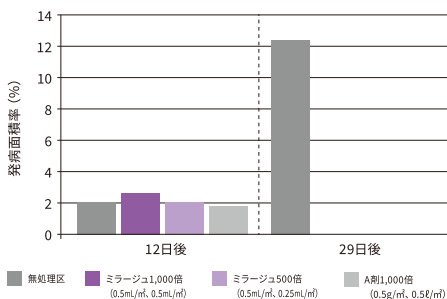
病害発生が起因する芝の生理障害にも注意。  
グリーンの体力を奪う夏の日差しは脅威



予防効果の最適化へ

高い効果を引き出す  
薬剤ローテーションが  
重要ポイントです

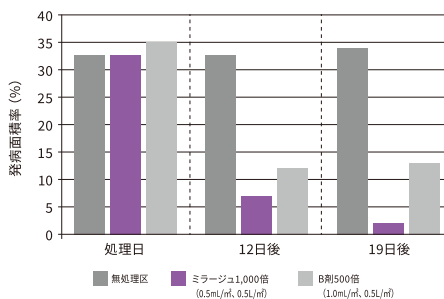
### ダラスポット病に対する効果



試験場所: 東日本グリーン研究所 処理時期: ダラスポット病発病後  
処理日: 2008年7月3日 (無処理病害発生率2.0%)  
調査日: 2008年7月17日 (14日後) (無処理病害発生率12.5%)  
散布水量: 0.25, 0.5L/m<sup>2</sup>; ミラージュ 0.5L/m<sup>2</sup>; 対照剤  
区制・面積: 2m<sup>2</sup>/区、3連制 草種・品種: ベントグラス (バンクロス)

ミラージュは対照剤と比較して、  
同等の効果が認められました

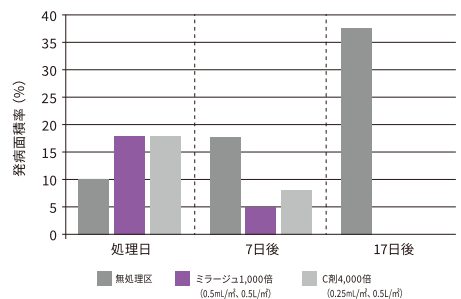
### 炭疽病に対する効果



試験場所: 関西グリーン研究所 処理時期: 炭疽病発病後  
処理日: 2009年5月21日 (無処理病害発生率33.0%) 6月1日 (無処理病害発生率33.0%)  
調査日: 2009年6月9日 (19日後) (無処理病害発生率34.0%)  
散布水量: 0.5L/m<sup>2</sup> 区制・面積: 2m<sup>2</sup>/区、2連制  
草種・品種: ベントグラス (バンクロス)

ミラージュは対照剤と比較して、  
高い効果が認められました

### 葉腐病 (ブラウンパッチ) に対する効果



試験場所: 関西グリーン研究所 処理時期: 葉腐病発病後 (中発生)  
処理日: 2009年7月6日 (無処理病害発生率10.0%) 7月13日 (無処理病害発生率18.0%)  
調査日: 2009年7月23日 (17日後) (無処理病害発生率38.0%)  
散布水量: 0.5L/m<sup>2</sup> 区制・面積: 2m<sup>2</sup>/区、2連制  
草種・品種: ベントグラス (バンクロス)

ミラージュは対照剤と同様に、2回目散布後、  
非常に高い効果が認められました

## フェアリーリング病に対する効果

	希釈倍率	希釈水量 (L/m <sup>2</sup> )	区	7月28日	8月11日	9月1日	ベントグラス に対する薬害
				発生程度*	発生程度*	発生程度*	
ミラージュ フロアブル	1,000倍	0.5	I	±	±	-	-
			II	±	-	-	-
			III	++	±	±	-
C剤	2,000倍	0.5	I	+	±	±	-
			II	±	±	-	-
			III	+	±	±	-
無処理区			I	±	+	±	-
			II	++	++	++	-
			III	+	++	+	-

\*発生程度: +++ (明瞭) ~++~+~±~- (なし) までの5段階で評価

試験場所	西日本グリーン研究所
処理日	2009年7月28日、8月11日
散布水量	0.5L/m <sup>2</sup>
草種・品種	ベントグラス(バンクロス)
処理時期	フェアリーリング病(ホコリタケ)
調査日	2009年8月11日(14日後)9月1日(35日後)
区制・面積	1m <sup>2</sup> /区、3連制

- ミラージュは対照剤と比較して防除効果がやや優れ、高い効果が認められました
- ベントグラスに対する薬害は認められませんでした

## ストレスガード製剤予防散布プログラム例データ

★ ストレスガード 製剤

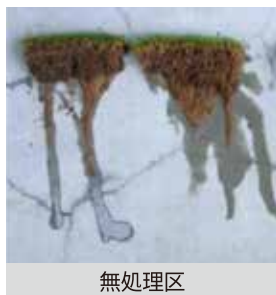
散布時期	4月		5月		6月			7月		
	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
薬 剤 名	★ シグネチャー WDG (1)		★ ミラージュ (0.5)	★ シグネチャー WDG (1)	プロテクト WDG (1)	★ インターフェース (1)	★ シグネチャー WDG (1)	★ シグネチャー WDG (1)	★ ミラージュフロアブル (0.5)	★ シグネチャー WDG (1)
	TPN剤		プロテクト WDG (1)	TPN剤	TPN剤		TPN剤	TPN剤		
	ピシウム剤A (Qii)							ピシウム剤B (イソキサゾール)		ピシウム剤 (ローバーフロアブル)

散布時期	8月			9月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
薬 剤 名	★ インターフェース (1)	★ シグネチャー WDG (1)	プロテクト WDG (1)	★ シグネチャー WDG (1)	★ シグネチャー WDG (1)	プロテクト WDG (1)
				TPN剤	TPN剤	TPN剤
	ピシウム剤C (テトラゾリルオキシム)	ピシウム剤D (フェコリアミド)	ピシウム剤A (Qii)	ピシウム剤E (カーバメート)		

※ ( ) 内の数字は薬量を表し、単位はmL/m<sup>2</sup>です。  
 ※ ストレスガード製剤及びプロテクト WDGの散布水量は100mL/m<sup>2</sup>を想定しています。  
 ※ シグネチャー WDGとプロテクト WDGの混用はできません。  
 ※ 複数の薬剤をタンクミックスする場合、投入の順番は①展着剤→②液剤→③乳剤→④フロアブル剤→⑤水和剤です。  
 ※ 初めてタンクミックスを行う組み合わせの場合、事前にバケツ等で混用試験を行うことをおすすめします。  
 ※ 散布例はピシウム病の発生圧が高いケースを想定しています。ピシウム剤については、地域・発生圧・気象条件等により適宜散布回数や時期を調節してください。

## プログラム散布の効果(根量比較)

試験場所 茨城県Bゴルフ場(社内試験) 調査年月日 2013年9月6日



無処理区



1



2



3

	全散布回数	内訳
1 慣行殺菌剤散布区 (UVカット資材含む)	殺菌剤7回	UVカット資材6回
2 ストレスガードプログラム ★	殺菌剤7回	★シグネチャー5回(6月・1回、7月・2回、8月・2回) ★ミラージュ1回(6月)
3 ストレスガードプログラム ★ <b>新提案</b>	殺菌剤7回	★シグネチャー5回(6月・1回、7月・2回、8月・2回) ★ミラージュ1回(6月) ★インターフェース1回(7月)

- ストレスガードを含むプログラム散布において(2、3)、夏越し後にベントグリーンの健全な根系が確認されました
- インターフェースを加えることにより(3)、さらに健全な根系の生育が確認されました

## 効率的プログラム散布のポイント

- 炭疽病・藻類の防除は発病前のプロテクト WDG散布が効果的です。
- ストレスガード製剤(シグネチャー WDG・ミラージュフロアブル・インターフェースフロアブル)は紫外線の強くなる5月頃からの散布が効果的です。
- 散布間隔は10日から14日を目安に散布してください。
- ピシウム専用剤のローテーションとしてシグネチャー WDG およびローバーフロアブルをお使いください。

適用病害及び使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	テブコナゾールを含む農薬の総使用回数
西洋芝 (ベントグラス)	ダラスポット病	200~250倍	0.1L/m <sup>2</sup>	発病前~ 発病初期	6回以内	散布	6回以内
		500倍	0.25L/m <sup>2</sup>				
	炭疽病 フェアリーリング病 葉腐病(ブラウンパッチ)	1000倍	0.5L/m <sup>2</sup>				
日本芝	葉腐病 (ラージパッチ)	400倍	0.2L/m <sup>2</sup>				

有効成分と性状

種類名	テブコナゾール水和剤
商品名	ミラージュフロアブル
有効成分	テブコナゾール(化管法1種)……21.4%
性状	暗青緑色水和性粘稠懸濁液体
荷姿	1L×6本/箱

人畜・魚介類に対する安全性(製剤)


人畜毒性 (急性) 普通物*	経口	ラット(♀)	LD <sub>50</sub> >2,000mg/kg
	経皮	ラット(♂♀)	LD <sub>50</sub> >2,000mg/kg
	皮膚刺激性	ウサギ	刺激性なし
	眼刺激性	ウサギ	刺激性なし
水産動植物に 対する影響	皮膚感作性	モルモット	皮膚感作性なし
	コイ		LC <sub>50</sub> 43.7mg/L (96hr)
	オオミジンコ		EC <sub>50</sub> 57.9mg/L (48hr)
	藻類		ErC <sub>50</sub> 14.9mg/L (0-72hr)

⚠ 効果・薬害等の注意事項

- 使用前に容器をよく振ってください。
- はくさい、だいこんにはかからないように注意してください。
- 使用量、使用時期、使用方法を守り、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。

⚠ 貯蔵上の注意事項

- 密封し、直射日光を避け、食品と区別して、冷涼・乾燥した場所に保管してください。

⚠ 安全使用上の注意事項 

- 誤飲などのないように注意してください。
- 散布時は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用し、作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをして衣服を換えてください。
- 公園等で使用する場合、散布区域に縄囲いや立て札をたて、散布中および散布後(最小限その当日)に関係者以外は立ち入らせないようにしてください。小児、人畜等に留意してください。
- 使用量に合わせて薬液を調製し、使いきってください。
- 空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理してください。洗浄液はタンクに入れてください。
- 火災時は、適切な保護具を着用し消火剤等で消火に努めてください。
- 漏出時は保護具を着用し、布砂等に吸収させ回収してください。
- 移送取り扱いは、ていねいに行ってください。
- 飲めません。
- 有効年月内に使用してください。
- 体調の悪いとき、妊娠中、飲酒後等は取扱い及び作業をしないでください。

● 使用前にはラベルをよく読んでください。 ● ラベルの記載内容以外には使用しないでください。 ● 本剤は小児の手の届くところには置かないでください。



エンバイロサイエンスジャパン株式会社  
〒100-0004  
東京都千代田区大手町 1-6-1  
www.jp.envu.com



お問い合わせ先